

# アンプティサッカー

## がんばれ! とつかのアスリート

### ワールドカップ2022に向けて!!

(9月30日~10月9日 トルコ大会)



**【プロフィール】**  
えんどうよしひこ  
**遠藤好彦さん**  
大正小・中学校  
金井高校  
昭和薬科大学 卒業

戸塚町にある「まめの木薬局」を経営する薬剤師  
大学1年生のときに、事故で片足を失う  
チーム:FCアウボラーダ所属  
2018年ワールドカップ(メキシコ)日本代表  
2022年ワールドカップ(トルコ)日本代表

戸塚駅近くにある薬局を営んでいる遠藤好彦さん。「アンプティサッカー※」(切断障害サッカー)で、ワールドカップの日本代表選手に選ばれ、チームのキャプテンとして出場したアジア予選は、見事1位通過しました!

**アンプティサッカーの魅力は**  
アンプティサッカーは、義足や車いすなど、競技のための補助する道具を使わずに、普段使用している医療用のクラッチ(杖)で体を支えてプレーします。選手同士や、クラッチのぶつかり合いなど、障害者スポーツとは思えないほど激しいスポーツですが、思い切りボールを蹴ったりできてとても気持ちがいいです。



**日頃の練習は**

日々の薬局の仕事をしなが、週末は、埼玉にある所属チームのグラウンドまで行って練習しています。アンプティサッカーが日本に普及してからまだ10年ちょっとで競技人口も少ないためか、人工芝などの競技に適した練習場所も少ないので、気軽に利

用できる施設が近くに欲しいですね。

**区民の皆さんへメッセージを**

大学生のときに事故で片足を失ってしまい、一時は大好きなサッカーも遠ざけてしまっていたのですが、アンプティサッカーと出会い、勇気を出してその世界に飛び込んでいって人生が開けました。障害があっても、身近なところに「こんな人があるんだ」「こんなことができるんだ」ということを知っていただき、皆さんもいろいろなことにチャレンジしてほしいです。これからは、数々の試合でいい結果を出していくことが、アンプティサッカーという競技を多くの人に知ってもらえるチャンスだと思いますし、応援していただいている皆さんへの恩返しにもなると思うので、精一杯頑張ります。

**※アンプティサッカーって…**

片手、片足に障害のある人がプレーするサッカーで、他の障害者スポーツと違い、日常生活やリハビリなどで使用する「クラッチ」を使うだけで専用器具を必要としません。

☎ 区役所広報相談係 (866-8321) 📠 862-3054

9月21日は  
世界アルツハイマーデー

## 見逃さないで! 認知症のサイン

軽度認知障害の人を含めると、65歳以上のおよそ4人に1人が認知症あるいは認知症予備軍とされています。早い段階で対処すれば、認知機能が回復したり、認知症の進行を遅らせることが期待されます。



**認知症予備群のサイン**

- 約束をよく忘れるようになった
- 趣味への興味がなくなった
- 服装に関心がなくなった
- 家族や周囲の人との会話が少なくなった

「もしかして…」と思ったら



**かかりつけ医に相談**

**もの忘れ検診**

- 実施医療機関で問診により確認し、認知症の疑いがある場合は専門医療機関を紹介します。
- ☑️ 市内在住の65歳以上で認知症の診断を受けたことがない人
- ☑️ 実施医療機関に直接申込
- 医療機関はHPを確認 ▶

**もの忘れ相談**

- 「認知症かもしれない」「受診した方がいい?」など、本人や家族からの相談に医師が応じます。
- ☑️ 物忘れについて医師に相談したことが無い人
- ☑️ 区役所

※要予約  
実施日などはお問い合わせください

～私たち一人ひとりが認知症を正しく知ることで、認知症の人やその家族を支えることにつながります～

**パネル展**  
「認知症を知る」  
認知症やその予防、介護についての本を集めて展示します  
📅 9月13日(火)～10月3日(月)  
📍 戸塚図書館展示コーナー



**～パネル展で配架中～**  
区役所2階9番窓口、区内各地域ケアプラザでも配架中  
「物忘れが増えた」「認知症の制度が知りたい」など気になった時にすぐに確認できます

キャラバンメイト<sup>®</sup>による  
**認知症サポーター養成講座**  
認知症の正しい理解のほか、認知症の人への接し方や相談窓口など、幅広く学ぶことができます。受講後は「認知症サポーター」として認知症の人や家族を見守る地域の応援者となります。講座を希望する場合はお問い合わせください。  
※認知症への理解者を増やすことを目指して、戸塚区キャラバンメイト連絡会のメンバーが活躍しています。

☎ 区役所高齢者支援担当 (866-8439) 📠 881-1755

## 大切な人の命を守るために私たちができること

毎年減少傾向だった市の自殺者数が、ここ数年増加しています。年齢別では60歳以上が一番多くなっていますが、女性や若い世代の自殺死亡率が上昇しており、広い世代にわたる問題になっています。コロナ禍の生活で人と会う機会が減り、それが長期化することで、誰もが孤独を感じやすい状況です。

9月は  
**自殺対策強化月間**

～周りの人を少し気にかけてみてください～

**気づく**

食欲がなさそう  
眠れていなさそう

悩みや問題を抱え、自殺に傾いている人の「いつもと違う様子」に周りの人が気付くことが大切です。

**声をかける**

体調どう?  
元気ないけれど何かあった?

悩み事は自分からは打ち明けにくいものです。「何か悩んでいる?」など声をかけてみましょう。率直に聞くことで相手を傷つけることはないと言われています。

**耳を傾ける**

たいへんだったね  
話してくれてありがとう

これまでの苦労をねぎらい、じっくり耳を傾け、気持ちを受け止めることが大切です。安心して話せる雰囲気づくりを心がけましょう。

**相談窓口へつなぐ**

いつでもご相談ください

～さまざまな相談窓口を紹介しています～

横浜市の自殺対策 ～生きる・つながる～支えあう、よこはま  
厚生労働省 まもろうよ こころ

☎ 区役所障害者支援担当 (866-8465) 📠 881-1755